

## 酸化分解型マルチの効果確認試験

JAとまこまい広域

①森山 幸治・②佐田 正彦



生産者① 慣行区 展張の様子



生産者① 慣行区 生育の様子



生産者① 試験区 展張の様子



生産者① 試験区 生育の様子



生産者② 慣行区 展張の様子



生産者② 慣行区 生育の様子



生産者② 試験区 展張の様子



生産者② 試験区 生育の様子

## 試験目的

酸化分解型マルチの実用性確認

試験作物  
及び品種

かぼちゃ(えびす)

試験資材  
及び数量(規格)

- ①畑楽マルチ(0.02mm×95cm×400m) 黒 無孔  
②畑楽マルチ(0.02mm×95cm×400m) 黒 無孔

## 慣行資材

- ①Bio-PAL(0.012mm×95cm×800m) 透明 無孔  
②Bio-PAL(0.012mm×95cm×800m) 黒 無孔

## 栽培方法

- | 展張日            | 定植日            |       |
|----------------|----------------|-------|
| ①慣行区・試験区:6月18日 | ①慣行区・試験区:6月23日 | ①森山さん |
| ②慣行区・試験区:6月15日 | ②慣行区・試験区:6月22日 | ②佐田さん |

## 資材使用期間

6月～9月

## 試験結果

## (1)作業性について(慣行品との比較)

- ①慣行品より厚いため、展張時の作業性は良かった。定植時も孔を開けやすかった。作業効率を考慮すると、最低600m巻きが欲しい。  
②作業性は問題なかった。作業効率を考慮すると、最低でも600m巻きが欲しい。

## (2)作物の生育状況または、収穫への影響

- ①(7月27日調査時)試験区は8葉(茎長約180cm)に対し、慣行区は7葉(茎長約160cm)であった。  
②(7月27日調査時)試験区は8葉に対し、慣行区は7葉であった。

## (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】:試験品の方が厚い分、保温効果が高いことが期待できる。

【問題点】:分解方法が異なるため、既存同様に分解するか確認が必要となる。

## (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

慣行品より厚いこともあり、強度は高い。分解性については、経過の観察が必要。

## (5)保温効果について

慣行品より厚いため、保温力は高いと考えられる。

## モニター感想

- ①慣行品より厚いためか、展張時の作業性や定植時の孔開け作業はし易かった。圃場が大きいので、実使用時には最低600m巻き以上であると良い。中間での生育差は若干あったが、収量に影響するほどではなかった。

生分解性マルチ全般に言えることだが、収穫時、南瓜へのマルチの付着がなくなると良い。

- ②作業性は問題なかったが、マークピッチが慣行品と同様35cm、巻き長さ600m以上が望ましい。価格が慣行品と差がなければ導入できると思う。分解性については、今後の様子を見なければいけない。

## JA担当者の感想(穂別 資材燃料課 工藤課長)

当管内では、南瓜の作付面積が大きく、以前はサンブラックマルチを使用していた。

サンブラックマルチの製造が中止して以降は、生分解性マルチに切り替えた経過にある。

現在は、薄肉であることから800mの長尺巻きが可能なBio-PALを中心に取り扱っている。

今回の試験品は、品質面では問題ないように見受けられたため、生産者から要望として挙がっている。

長尺巻き、マークピッチの改善ができれば、導入可能と考えられる。

また、慣行品と同期間並みに分解されるかは、今後注視していきたい。

## 今後の使用について

継続して使用したい。

- ①今後の分解性、②巻き長さ、③マークピッチについて改善できれば使用可能である。

## その他

写真については7月27日撮影

1 栽培システム

2 栽培システム

3 製地フィルム

4 マルチ

5 不織布

6 育苗資材

7 防虫ネット

8 防虫資材

9 ICT機器

10 その他